会派視察 • 研修報告書

会派名 市民クラブ

代表者名 若尾敏之

1 月 に ち	令和7年8月5日(火) 13時30分~16時00分
2 視 察 先	研修名:「地域の足」が無くなる?交通空白解消セミナー
研修名、主催者及び会場	主催者:地方議員研究会 会場:リファレンス西新宿大京ビル2階
3 参 加 者	若尾敏之
	~地域からバス、電車、タクシーが無くなる?
4 調査研修の	今地方議員が取り組むべき課題~
テーマ	
	交通崩壊の解決策としての地域公共交通への投資
5 主な内容	①コロナが与えた地域公共交通への影響
	・コロナ下の公共交通の維持
	・必要不可欠な移動が失われた影響
	・公共交通の輸送人員の変化
	・コロナによる行動変容
	・バス事業者の内部補助の実態
	・目に見える崩壊は始まっている
	・目に見えない崩壊も始まっている
	・公共交通維持のための3つのシフト
	・時間帯別運賃とダイナミックプライシング
	②交通事業者への支援と利用促進
	・コロナ下の自治体からの支援
	・継続的な支援の事例〔沼津市〕
	コロナが終わったら終わりではない
	・事業継続に関わる広域支援の事例
	・事業の対象(効果が期待される人)の把握
	・事業の結果のどの部分に価値を置くか
	・乗車単位でのきっかけ作り
	・目先のお得と未来のお徳
	③地域公共交通のリ・デザインとデータ活用によるアップデート
	・地域公共交通の再構築(リ・デザイン)
	・情報利用の流れと分析
	・運輸部門のCO2排出量と削減目標

5 主な内容

- データがある前提のサービス
- ・電動化と乗り合いによるСО2排出量の比較
- ・移動による脱炭素化への選択肢
- ・地域関係者の連携と協働による共創の促進
- 連携・協働の例
- ④地域公共交通に対する投資と参画
 - ・自治体の投資と市民の参画〔富山県〕
 - ・城端線・氷見線再構築実施計画の概要
 - ・積極的な投資での利用増〔鶴岡市〕
 - ・移動できることの複合的な価値〔気仙沼市〕
 - ・公共交通の無償化への転換 〔珠洲市〕
 - ・公的投資による利用増へのアプローチ
 - ・助け合う範囲の再構築
 - ・移動サービスの公共性
 - ・陳情ばかりでは変わらない、「1回乗ってみる」もできること

6 所感、提言事項 課題等

コロナが与えた地域公共交通への影響は、必要な機能を維持することが 求められる中、交通事業者にとっては売り上げの減少や感染リスクの増加 による自家用車の利用が増えたことで、公共交通離れが増えてしまった。 外出自粛など必要不可欠な移動が失われることにより高齢者の体力低下が 進み新たな福祉・介護の負担増加に直結した。公共交通に関しては最悪 からは脱したが回復しても以前のように戻っていないことが問題視される バス事業者にとっては、元々赤字であった路線バスに対して、黒字経営で あった高速・貸切バスの内部補助で支えてきたものが崩壊してしまった。 結果、内部補助で支えられていた不採算路線の撤退や従来行っていた赤字 補填や利用促進だけでは経営危機を乗り越えることは困難である。国や 自治体からの継続的・大規模な支援や関わり方の見直しが不可欠である 沼津市では継続的な支援として様々な事例を展開、第3弾として市内の 65歳以上の高齢者へ公共交通 (バス・タクシー) 共通利用券 3,000円分(100円×30枚)を無料で配布し、余った人は老人に あげることも可として実施、現在は配布対象者を全世帯に拡大し、 1世帯に3,000円分のチケットを配布している。この他にも数多くの 施策を行っており、コロナが終わったら支援も終わりであるという考えは 捨てるべきと思います。